

巻機山の危機 — スキー場計画が急浮上 —

富 永 弘

六日町と塩沢町の境に位置し、織り姫伝説のある巻機山は、新潟県内はもちろん、首都圏を始め全国の岳人にとって、親しみ深い山である。優美な山形で山頂に美しい草原を抱く反面、五十沢川を筆頭とする凄まじいゴルジュの発達した険谷が幾本も刻まれ、取り分け米子沢は沢登りのメッカとして、秋には紅葉に映えるスラブ登りに行列のできる昨今である。

その巻機山に開発計画が云々されるのは、今回が初めてではなく、過去に数回同様の話があった。今回の巻機山スキー場計画は、ここ2-3年の話であり登山道のある井戸尾根にロープウェイを架けてブナを伐採し、標高差1,000mのスキー場にしようというものらしい。今冬のごとく暖冬少雪でほとんどの在来スキー場が営業不能に陥ったとしても、巻機山ならば滑降可能であり、この点からも開発側にとっては魅力ある山域であろう。

しかし、開発に食指を伸ばす大手企業の名前はチラホラするが、地元でもこの計画の詳しい話はほとんど聞かれない。隠密の内に事を運び、絶対大丈夫と決まったら一気に重機と札束の攻勢をかけてくるのは、もはや常套手段となったようだ。この好例を私達は苦い気持ちで思い出す。西武が開いた六日町の八海山スキー場である。地元は集落の存亡をかけて八海山スキー場開発に期待していた。そんな状況下であからさまに「反対」は唱えにくかったし、事が始まるまでは具体的な計画や時期が全く隠されていたように記憶している。

巻機山の山頂草原の荒れがひどくなり、改修工事が盛んになされたのは十余年以上の昔になった。行政やボランティアの手によって何とか現状にまで回復し、持ち堪えているように見えるが、危なっかしいバランスの上に立っていることは誰の目にも明らかだ。登山道を辿ればわかることだが、巻機山の表土は極めて流失しやすく、岩も固いとはいいながら、脆さも目立つのである。米子沢の大石の堆積や天狗岩の下の岩屑の山を見れば、土石流の危惧も胸に浮かぶ。

開発しようする側にも様々の理由はあろうが、私はただ一点「巻機を自然を残して欲しい」ということを心から望んでいる。高速交通網の発達で首都圏からの観光客・スキー客の増加が著しく、観光で伸びようとする地元にとっては聞き入れにくい声ではあろう。だが少し考えてほしい。行政や観光協会の宣伝のとおり、本当に南魚沼は自然が豊かに残っているのだろうか？夏の谷川連峰茂倉岳から北を見ると、赤茶けたスキー場の地肌が点々とではなく、ベルト場に連続して痛々しい限りである。表面の植生を剥がれ、表土の流失する溝までが目に浮かんでくる。視線を転じれば、苗場山も山頂部以外は林を伐られて丸裸の状態だし、思わず目を伏せたくもなる。あまつさえ進行中のダム工事を抱え、それに伴う遊歩道、ロープウェイの建設計画も風聞されるのである。

自然が私達に語りかける声に耳を傾けてほしいと思う。魚沼の人々はずっとその声を聞いて生きてきた。その声を聞けなくなったとき、人は豊かな心を無くしていく。目に見える、お金に換算できるものしか価値を認めなくなってしまふ。朝に夕に巻機山を眺めて育ち、巻機の麓で暮らしてきた人達の中に、「巻機を守れ」の声が生まれ広がって欲しいものである。

私達は巻機から豊かな思いをいっぱい受けてきたはずである。その巻機が、いまや回復不能の痛手を受けようとしている。巻機山の、そして巻機に生きる動植物の呻き声が聞こえてくる。もう黙って見てはいられない。巻機を守らなければならない。「地元の人々の生活をどう保証するのか」と問われれば、これという妙手を思いつくわけではない。自分たちの生き方は自分たちで決めてもらう他ないが、スキー場開発をも含めて、広い視野で未来を見通してほしい。「スキー場絶対反対！」と声高く叫ぶのは心苦しい点もあるが、「何とか、どうか巻機を自然を残してほしい」と切に願う。

美しい巻機山の自然は、ほんの一握りの札束のために犠牲にされてはならない。悠久の歴史の中で、単に今生きる人間のそれもごく少数によって破壊されつくしてよいはずはない。それは誠に思い上がった行為であり、必ず悔いる時がくると思っている。自然に対する畏れを失くした時、文化も人の心も豊かには発展しえないのではなからうか。

(とみなが ひろし：みちぐさ山の会会員 北魚沼郡小出町在住)

美しい巻機山の自然をそのまま守るために、新しい会が発足する予定です。
 巻機山を守る会発足の準備会 [別紙案内を参照下さい]
 日時／2月 14日(日) 午前 9時
 会場／南魚沼職業訓練校 南魚沼郡六日町西泉田 48-1
 巻機山を守る会(仮称)発足会
 日時／2月 28日(日) 午後 13-16時
 会場／南魚沼職業訓練校 南魚沼郡六日町西泉田 48-1
 問い合わせ／〒949-84 新潟県中魚沼郡中里村田沢巴 2359 Tel 0257(63)3286
 井口 久雄